

北浜地区倉庫群

小樽は 19 世紀中頃にはすでに海上貨物と貿易の重要な港でしたが、1882 年に内陸の釧山から港に石炭を運ぶ北海道初の鉄道が開通すると、小樽の経済と人口は急速に成長しました。拡大する港の需要を満たすため海岸沿いに新たな土地が造成されました。北浜地区は 1889 年の埋め立てで作られました。これらの倉庫の多くは石川県、福井県、新潟県、富山県などの北陸地方に基盤を置く商船主が所有していました。

小樽運河の北端に近い北浜地区にはこれらの商船主によって建てられた倉庫のうち 6 棟の倉庫が残っています。小樽と札幌で採れた凝灰石を木材の骨組みに固定して造られています。石は火災に強く、木の枠組みは早く安価に建設できました。

1. 旧右近倉庫

右近倉庫は 1894 年に福井県の商船主のために建てられました。切妻屋根を持つ大型倉庫です。簀に似た 2 本の平行な黒い線である右近家の印が倉庫の正面に記されています。この印は右近家の店先や店員の制服にも使われていました。倉庫は元々、越屋根でした。しかし、1924 年に手宮駅で貨物列車に運ばれていたダイナマイトが爆発し、右近倉庫など近隣の建物が被害を受けました。屋根は再建され、屋根の切り取られた形状がその事故を思い起こさせます。

2. 旧広海倉庫

広海倉庫は 1889 年に建てられた大きな木骨石造り倉庫です。広海家は石川県加賀出身の船主で、1889 年に小樽で倉庫業を始めました。広海家は海産物を取引し、19 世紀末には右近家とともに海上保険サービスを開始しました。この倉庫には貨物を積み込むための 2 つの大きな石造りのアーチ型出入り口があります。

3. 旧増田倉庫

増田倉庫は 1903 年に建てられました。増田家は広海家と同じく加賀の船主でした。1880 年代には木造北前船 8 隻とヨーロッパ式帆船 3 隻を運用していました。倉庫は木骨 2 階建ての石造りで、切妻造りの屋根がついていました。現在、これらの右近倉庫、広海倉庫、増田倉庫は堺町通りの木村倉庫内で小売店とカフェを運営する北一硝子株式会社の倉庫として使用されています。

4. 旧大家倉庫

大家倉庫には広い正面の 2 つの扉の上の装飾的な二重アーチ型の石積みと窓のための越屋根があります。1891 年に石川県加賀の船主大家家によって建造されました。

5. 旧渋沢倉庫

渋沢倉庫は 1895 年に建てられた 3 棟の石造り建造物が連なった建物です。道路から奥に入った切妻屋根の大きな石造りの建造物が正面にある 2 つの小さな建物を繋いでいます。この倉庫は遠藤家によって建てられ、1915 年に実業家渋沢栄一（1840 年－1931 年）に購入されました。渋沢は、日本の近代経済の発展に尽力した功績で「日本資本主義の父」として知られています。この倉庫は現在カフェとして営業しています。

6. 旧小樽倉庫

小樽倉庫は 1890 年に加賀の商船主である西谷庄八と西出孫左衛門によって、新たに埋め立てられた土地に建てられました。倉庫は貨物が陸揚げされ、加工されていた中庭の周りに建てられています。現在、倉庫のいくつかは小樽市総合博物館として使われています。